

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	京都府立舞鶴子ども療育センター 放課後等デイサービスそらいろ		公表日		2026年 4月 27日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点・改善が必要だと思われる点など		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	60%	40%	現状8人でスペースの余裕は少ないですが、スペースに合わせた活動を計画し、そのスペースの中でできる活動を考えております。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	20%	80%	室外に出てしまう子、一対一で対応が必要な子など、児童が活動から離れた際に職員が抜け、手が足りなくなる場合があります。お子さんの特性や活動内容により、事前に職員の配置数を増やし対応しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。	100%			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%			
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%			
	6	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		保護者の意向を汲み取りながら、次年度の活動を計画しております。	
	7	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		ミーティングなどで意見交換をしております。	
	8	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	80%	20%	さらなる資質向上が必要と感じます。医師やリハビリスタッフからの情報提供や、研修日を利用して職員の資質向上に取り組めるよう努力してまいります。	
適切な支援の提供	9	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%			
	10	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%			
	11	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%			
	12	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%			
	13	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		学校とも連携しながら日々の状況を確認しております。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		リーダー中心で行い、スタッフに意見をもらっております。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%			
	16	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%			
	17	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%			
	18	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%			
	19	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%			
	20	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	80%	20%	基本活動を組み合わせる場合でも、最初から複数組み合わせる支援する場合もあれば、児童によっては活動開始時で優先すべき基本活動がある場合もあり、その児童の変化によって組み合わせを工夫しております。	

	21	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	80%	20%	「指示に従う」「時間を守る」などスキルを身に付ける場面もあれば、自己選択の前提になる「相手を見る」「人の話を聞く」など、自己決定力の基礎を身に付ける支援をしています。
関係機関や保護者との連携	22	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		
	23	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		
	24	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		100%	身近に児童発達支援センターがないため、これまで職員の交流や連携はありませんでした。児童発達支援センター以外に、必要に応じた助言や研修が受けられる施設の情報収集に取り組んでまいります。
	25	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		100%	時間的制約や平日開設、SST（ソーシャルスキルトレーニング）を中心に取り組んでいる特徴もあり、地域との交流機会がもてておりません。当センターでの放課後等デイサービスの活動の特徴を活かし、他の施設との情報交換を通じた交流が可能か検討してまいります。
	26	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	80%	20%	担当者が参加しておりますが、職員への情報共有や、課題共有への話し合いを行うなかで積極的に参加できるよう取り組んでまいります。
	27	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		
	28	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		今年度から親のそらいろ教室として保護者向けの研修を実施しております。
保護者への説明等	29	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		
	30	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		
	31	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%		
	32	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		
	33	保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%		
	34	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		誠実に対応するよう心掛けております。
非常時等の対応	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		
	36	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	80%	20%	職員と児童、保護者で毎月、火災・地震の避難訓練を実施しております。それ以外の事についてもマニュアル等は策定しているので、それぞれについての発生を想定した訓練が実施できるよう検討してまいります。
	37	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		
	38	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		
	39	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		
	40	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		
	41	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		
42	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%			